

1 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標から

本校は、「折尾西地域のもつ特性をもとに『知・徳・体の調和のとれた自主的精神に満ちた心豊かな子』の育成に努める。」という学校の教育目標のもと、「進んで学びよく考える子」を目指す児童像の一つとしている。このような児童を育成するためには「自分の考えを深め、適切に書いたり相手に伝えたりする力」を身に付けさせることが必要不可欠であると考えている。

(2) 「書くこと」の領域を研究することの意味から

本研究の推進にあたり、「ひとつの文章を書き上げる」という学習活動の、折尾西小学校児童にとっての意義を述べる。その意義は、大きく三つと考えられる。

① 「よく考える」「深く考える」という態度・能力の育成

「書くことは考えることだ」と多くの識者が述べている。「書くこと」における「課題設定・取材・構成・記述・推敲・交流・振り返り」というひとまとまりの指導は、常に本校児童を思考する状況に置くことができる。「よく考える」「深く考える」という態度・能力の育成の上で意義がある。

② 論理的思考力の練磨

「書くこと」の学習では、

- ・ 考えたことと、それを支え、裏付ける根拠や理由を結び付ける。
- ・ 調べたことなどの事実と事実、事柄と事柄を関係付ける。
- ・ モデルやサンプルを参考に、自分のすることに当てはめながら具体的に考える。

などという思考を行うことが多い。また、その一つ一つの場面で、整合性を吟味する等の思考を、学年に応じて行う。これは、論理的思考の中核であり、今、求められている力を育てる意義のある活動となる。

③ ひとつの文章を仕上げるまでに様々な「書くこと」を経験する中で培われる力の大切さ

青木幹勇氏は、著書「第三の書く 読むために書く 書くために読む」(国土社)の中で、書くことを三つに体系化している。

- 「第一の書く」… 書写・習字
- 「第二の書く」… 作文
- 「第三の書く」… それ以外の書くこと(「聴写」「メモ」「筆答」「書抜き」「書込み」「図式化」等)

特に、「第三の書く」は、様々な教師が、経験的に行き、工夫して実践を積み重ねてきたものの、あまり意識されていなかった「書くこと」の内容であった。「第二の書く」にあたる国語科における「書くこと」単元のひとまとまり指導では、単元終末によりよい文章が完成され、作品として読まれることがよいことはいままでのない。しかし、その作品が結果として、他者から見て、つたない作品であったとしても、その作成過程において、「視て写す」「真似て書く」「メモをする」「聴いて書く」「書き広げる」「書き換える」「書きまとめる」などの「第三の書く」活動が、様々な配慮がなされた上で組み込まれている。様々な機能をもった意図・目的が明確な「第三の書く」が散りばめられることにより、本校児童にとって「書く力」を鍛える価値ある学習活動となる。

このように、本校児童に「書くこと」に意欲的に取り組ませること(=指導者が、「書くこと」の場を適切に仕組み、丁寧な指導を行うこと)は、「主題力・取材力・構成力・記述力・推敲力など」「書字力・語彙力・語句力・表記力・文法力・文章構成力など」という目に見えやすい「書く力」とともに、「思考力・判断力・観察力・知覚力・感受性・表象力など」という目には見えにくい、ねうちの「認識諸能力」を鍛える意義が大きいと考える。本校児童に一番付けたい力である「思考力・判断力・表現力等」は、言い換えると、「自分で考えて、自分で判断し、自分の言葉で適切に表現する力」と考える。本校主題に、その実現への願いを込め、取り組んでいく。

2 児童の実態および研究の成果と課題から

平成20年度から、国語科の「書く力」の育成に焦点化して研究に取り組んできた。平成22年度より「自分の考えを深め、適切に書く力を育てる国語科学習指導」をテーマに児童の「考えを深めて書く力」を育てることを目指して言語活動（文種）に応じた指導と評価の充実を図りながら実践研究を重ねてきた。児童の書く力は「これを伝えたい」という思いを膨らませ、分かりやすく表現するための自分なりの課題をもち、幅広く取材を行う、構成の工夫をする、表現の工夫をして記述する、などの各表現過程に応じて全般的な伸びが見られるようになった。また、書く際に取り組む手順（課題設定・取材・構成・記述）や文種に応じた書き方などは学年に応じて身に付けることができている。しかしながら、「個」のレベルで見ると自分の考えを表す際に根拠を示すことは意識されているが、①根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する、②自分なりに試行錯誤し、より効果的な表現を工夫する、という点が課題として挙げられる。また、児童は6年間の学習の中で様々な文種に取り組んできた。児童の中には「書く力」として残ってはいるが、学んだことを目に見えるものとして積み重ねる形で残してくることはなかった。そのため、普段の言語生活の中で意識して役立てることはできていなかった。

3 研究主題について

(1) 研究主題「自分の考えを深め、適切に表現する力を育てる」について

①「自分の考えを深める」とは

「自分の考え」とは、外発的・内発的な動機を高める働きかけにより、生じた「児童一人一人の表現したい漠然とした内容」である。「深める」とは、表現過程において、「自分で筋道を立てて論理的思考力を発揮すること、幅広く想像力、直感力を駆使すること」である。「自分の考えを深める」とは、「児童一人一人の表現したい漠然とした内容を、自分で筋道を立てて、論理的思考力を発揮し、幅広く想像力、直感力を駆使したりして明確にしていくこと」と考える。具体的には、「児童一人一人がよりよい文章にするために、課題を明確にもって、試行錯誤しながら進んで自分の課題を解決していくこと」と考える。

②「適切に表現する」とは

「適切に表現する」とは、「とりとめのない自分の考えを整理して、相手や目的・意図、場面や状況に応じて、他の人に対して分かりやすいように内容を組み立てて伝え、意思の疎通を図ること」である。

(2) 副主題「交流活動を位置付けた学習展開と文種に応じた『書く』指導の工夫」について

①「交流活動を位置付けた学習展開」とは

「交流活動を位置付けた学習展開」とは、書く活動の各過程において、児童が自分の考えを深めることができるような交流活動を仕組むことである。交流の種類としては、昨年度取り組んだ「よさ見つけ・アドバイスの交流（グットカード・チャレンジカード）」「考えを深める交流」「自分の表現に活かす交流」などが挙げられる。

②「文種に応じた『書く』指導」とは

「文種に応じた」とは、小学校で学習する文種の表現過程において発達の段階や児童の実態に即した有効な手だてを行うこととする。

4 研究仮説について

児童の生活や他教科との関連を考えた年間指導計画を作成と各学年で取り上げる文種の特質に応じた指導の重点化を基盤に、国語科「書くこと」領域の学習指導において次の手だてを取れば、児童は自分の考えを深め適切に表現する力を身に付けるであろう。

(1)交流活動を位置付けた学習展開を行う。 【着眼1】

(2)文種に応じて、重点化した内容の「書く」指導の工夫 【着眼2】

5 仮説実証のための着眼点について

これまでの研究の成果と課題を受け、本年度は、次の着眼点で取り組んでいくことにした。

【着眼1】交流活動を位置付けた学習展開を行う。（別添資料参照）

児童が自分で課題をもち、考えを深め、適切に書いて表現する力を付けていくことができるように、これまでの学習展開に以下の交流活動を位置付ける。

〈着眼1-①〉一次表現の課題に気づき、見直すための交流活動を行う。

「もっとここを工夫したい、ここが足りない」など、自分の課題を明確にし、それぞれが自

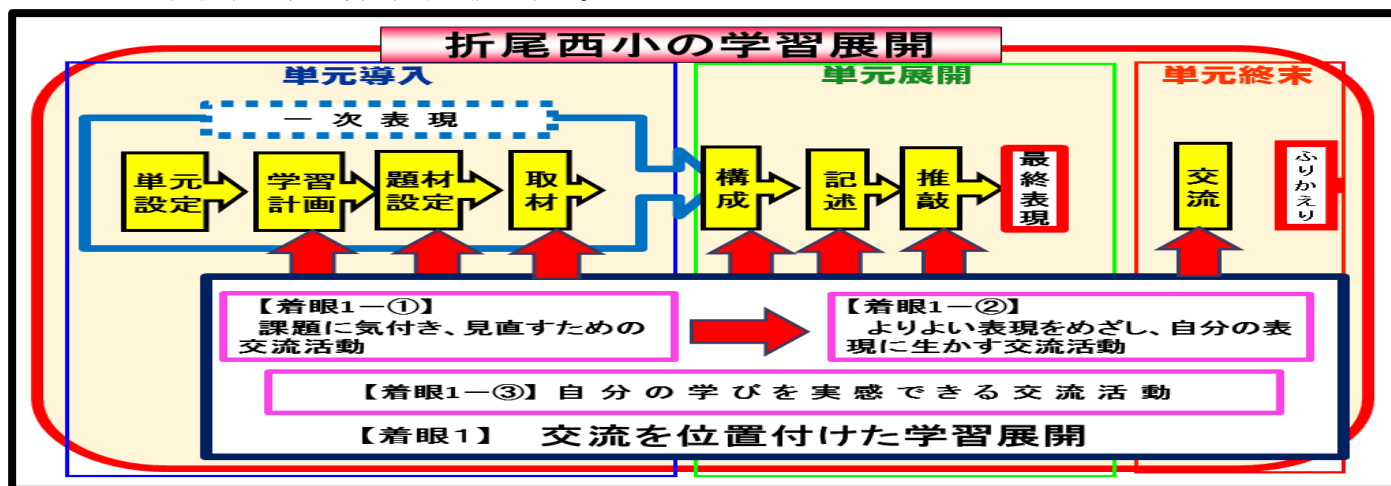
分の課題の解決を目指して取り組んで行くことができるような交流活動を設定する。

〈着眼1-②〉よりよい表現をめざし、自分の表現に生かす交流活動を行う。

児童が自分なりの考えを自分なりの表現で書くことができるようにするためには、より多様な考えや表現方法にふれることができるようにすることが重要である。そこで、書く学習の各段階での交流活動を設定する。この活動の中で児童は多くの友達の考えや表現方法を知り、それを自分の表現に取り入れ、アレンジして活かすことができるようにする。

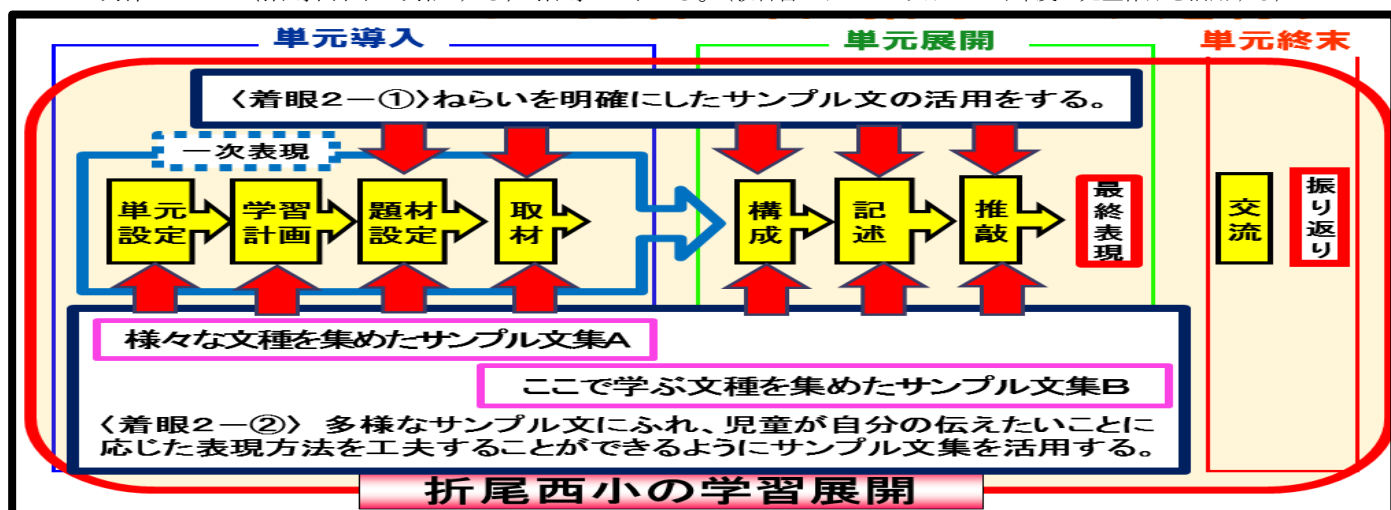
〈着眼1-③〉自分の学びを実感できる交流活動を行う。

児童が自分の学びを実感することができるように一次表現と二次表現、最終表現を比較し、交流する場を単元終末に設定する。



【着眼2】文種に応じて、重点化した内容の書く指導の工夫を行う。

課題設定、取材、構成、記述、交流のどの段階で、どのような目的でサンプル文を使用するのかを明確にして（指導計画に明記する）指導に当たる。（教科書のサンプル文および昨年度の児童作品を活用する）



〈着眼2-①〉ねらいを明確にしたサンプル文の活用

児童が、書くことの学習の各過程で、どこでつまづくのかを「個」のレベルでとらえ、それに応じたサンプル文を活用する。

〈着眼2-②〉多様なサンプル文にふれ、児童が自分の伝えたいことに応じた表現方法を工夫することができるようにサンプル文集の活用をする。（別添資料参照）

今の学年で学習する文種に加えて、前学年で学習した文種もサンプル文集として、用意する。（児童の作品、今まで書きためた先生方のサンプル文をまとめたサンプル文集）

- サンプル文集A：様々な文種のサンプル文を収集したもの
- サンプル文集B：学習する文種の様々な作品を収集したもの